



平成23年度 北中物語

平成23年7月14日 13号

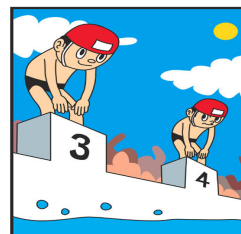
文責:校長 中村 裕子

校長mail yuko-nakamura@staff.gsn.ed.jp

みんなでがんばる みんなで讃える 七月の栄光

1 群馬県春季選抜水泳競技大会

| | | | |
|---------------|-------------|-----------|--|
| 男子団体 | 第7位 | 26点 | |
| 男子100mバタフライ | 第1位 | 小林 拓海(3年) | |
| 男子200mバタフライ | 第3位 | 小林 拓海(3年) | |
| 男子100m背泳ぎ | 第5位 | 高柳 遼(3年) | |
| 男子400mメドレーリレー | 第5位 | | |
| 高柳 遼 若林 雄治 | 小林 拓海(以上3年) | 太田 裕也(1年) | |
| 女子200m自由形 | 第7位 | 瀧本 和(3年) | |
| 女子400m自由形 | 第3位 | 瀧本 和(3年) | |
| 女子800m自由形 | 第2位 | 瀧本 奏(1年) | |



2 ソフトテニス中学生招待試合

準優勝 中澤 寛紀(3年) 中村 健次(3年)

3 第42回藤岡市民総合体育大会兼第57回藤岡市民柔道大会

| | | | | |
|------------|-----|-----------|-----|-----------|
| 中学3年男子軽量の部 | 優勝 | 河田 輝 | 第3位 | 大塚 誠也 |
| 中学3年男子重量の部 | 優勝 | 高橋 一貴 | | |
| 中学2年男子軽量の部 | 優勝 | 黒澤 一輝 | | |
| 中学2年男子重量の部 | 第3位 | 中川 詔之 | 第3位 | 弓削 匡隆 |
| 中学1年男子の部 | 優勝 | 木村 優太 | 第3位 | 金田 拓也 |
| 中学年女子軽量の部 | 準優勝 | 武井なな美(2年) | 第3位 | 福田 愛(2年) |
| 中学年女子重量の部 | 優勝 | 富岡 彩純(2年) | | |
| | 第3位 | 田中 来実(2年) | 第3位 | 横田 瑛里(3年) |

4 校内少年の主張大会

| | | | | |
|-----|------|-------|------|--------|
| 優秀賞 | 1年7組 | 狩野遼太郎 | 2年1組 | 後藤 柚香 |
| | 2年2組 | 工藤 志織 | 3年2組 | 坂木 美乃里 |
| | 3年3組 | 松本 礼奈 | 3年5組 | 奥寺 遙 |
| 努力賞 | 1年1組 | 前田 真奈 | 1年3組 | 新井 穂乃花 |
| | 1年6組 | 関 悠馬 | 1年6組 | 山内 三佳 |
| | 2年3組 | 松本 倅奈 | 2年4組 | 高橋 智貴 |
| | 2年6組 | 齊田 弘実 | 3年2組 | 瀧澤 翔太 |
| | 3年5組 | 石井 雪乃 | | |

5 第32回少年の主張藤岡市大会

| | | | |
|------|-----------|------------|-----------|
| 最優秀賞 | 奥寺 遙(3年) | 後藤 柚香(2年) | 松本 礼奈(3年) |
| 優秀賞 | 狩野遼太郎(1年) | 坂木 美乃里(3年) | 工藤 志織(2年) |

最優秀賞(市代表)3人を独占したのは確かに快挙、でも出場した6人全員があの舞台での主張が「これまでで最高のでき」だったことはもっとすごい快挙!!

生徒の皆さんへ

努力は、かけた時間によって測定できる

これは、経済評論家の勝間和代さんが新聞の中で語っていた言葉です。そして「努力をすれば何とかなるわけではありませんが、努力なしでは何も始まりません」とも語っています。

1学期の終業を数日後に控え、皆さんは、今何を思っていますか？おそらく中体連のことでしょう、コンクールのことでしょう。中体連やコンクールのことで頭がいっぱいだなんて幸せなことですね。だって、皆さんには、努力を披露する場があるわけですから。では、なぜ、中体連やコンクールに向けて努力してきたのでしょうか。よい成績を収めるため？それはそうです、優勝旗や賞状をたくさん持ち帰ってくださいね。ただ、これだけは知っておいてください。それは、「日本一」になった人以外はみな、「敗者」であるということです。しかし、中学生の敗者はただの「敗者」ではありません。負けた悔しさやむなしさや悲しさなど努力した者でしかわからない「痛い心」を経験をできるからです。青春時代にこの「痛い心」を経験した人はその後が強いです。言い換えれば、この「痛い心」を経験するから、人として成長できるのです。皆さん、特に3年生の皆さん、「痛い心」も必ず「豊かな心」に変わっていきます。そう、夏が終わる頃には……。あと数日の部活動の時間を、もっと「努力」で埋めてみませんか……。



北中の教職員の姿から

北中教職員の一日は、7時の朝練習に始まり、授業、生活指導、諸事務、会議、部活動、下校指導……そして現在は学期末事務等々と続きます。これが毎日のことです。（特にこのところは、冷房のきかない職員室での執務で退庁時間が22時などというのが珍しくありません）本当によくやっています。（上司として頭が下がります。）

私は北中に赴任して4ヶ月目ですが、本校のすごさはこの教職員の姿にあると心から思っています。職業人としても一人間としても優れた集団だと胸を張って言えます。こんな教職員に育てられている子どもが伸びないはずがありません。ですから、学校に任せただけでいいのです。ただ、皆さまと同じ大人・職業人である教職員について少しご理解いただきたく、恐縮ではありますが、私の気持ちをお伝えいたします。

本校の職員、家に帰れば父であり、母であり、夫であり、妻であり、子どもでもありません。つまり当然ですが、それぞれに家庭生活があります。しかし、きつと妻たる職員の家庭では毎日遅い時間の夕食なのでしょう。夫たる職員の家庭では、父不在の夕食が続いているかもしれません。子たる職員の家庭では、遅い帰宅を父母が心配していることでしょう。そして、受験生を抱えていたり、家族に病人を抱えている職員もいます。休日の部活動にかける時間も半端ではありません。1週間、休みなしという教職員が珍しくありません。でも、私の誇る「彼ら」は、グチひとつ言いません。それは、「そこに愛する生徒がいるから」です。

この、職員が大きな時間的犠牲を払って職務に就いているということ、保護者の皆さまに少しでも知っていただけると校長として幸いです。失礼しました……。